

低**所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金**

食費等の物価高騰等に直面する低所得の子育て世帯に対し、給付金を支給します。

支給額
児童1人当たり
5万円

対象者		申請方法等
申請不要	① ひとり親世帯で2023年3月分の児童扶養手当の支給を受けている方	手当で使用している口座に5月31日に振込み
	② ①以外の方で2022年度「ひとり親世帯以外の低所得の子育て世帯生活支援特別給付金」を受給した方	2022年度給付金受給口座に5月31日に振込み
申請必要	③ ①と②以外の子育て世帯で、次のいずれかに該当する方 【ひとり親世帯】 ▷公的年金等を受給しており、2023年3月分の児童扶養手当の支給を受けていない方 ▷23年4月以降児童扶養手当の支給を受けている方 ▷直近で収入が減少し児童扶養手当の支給を受けている方と同じ水準となっている方 【ひとり親世帯以外】 ▷23年度分の住民税均等割が非課税の方 ▷直近で収入が減少し住民税均等割が非課税の方と同じ水準となっている方	
対象児童		18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある児童(特別児童扶養手当の受給対象となっている児童は20歳未満)
申請期間		2023年6月1日(木)~24年2月29日(木)
注意事項		就学援助費受給世帯等特別給付金と重複して受給できません
市ホームページ	必要書類等詳細は市ホームページ等でお知らせします。右の二次元コードから給付金のページにアクセスできます。市ホームページ番号1021577 https://www.city.toyooka.lg.jp/kosodate/teate/1022844/1021577.html	
問合せ	こども支援課☎21-9038	

就**学援助費受給世帯等特別給付金**

18歳の年度末に達するまでの児童・生徒(障害のある児童等の場合は20歳未満)を養育する保護者で、次に該当する世帯を対象に、市独自に給付金を支給します。

支給額
児童1人当たり
5万円

対象者		申請方法等
申請不要	①2023年4月分の就学援助費を受給している方 ※豊岡市立小中学校在籍者以外の児童・生徒がいる方は申請が必要です。	援助費の支給に使用している口座に5月31日から順次振込み(対象者には個別に通知)
	②2023年5月から24年2月の間に就学援助の認定を受けた方 ※ただし、就学援助の申請が必要です。	▷就学援助が認定となった方に、申請書類を送付 ▷豊岡市立小中学校在籍者分は、援助費の支給に使用している口座に順次振込み ▷豊岡市立小中学校在籍者以外の対象児童・生徒がいる場合は、別途申請が必要
申請必要	③2021年中または22年中の所得が就学援助費を受給している方と同じ水準の方(豊岡市立小中学校在籍者のいる世帯を除く)	▷申請書の入手(市ホームページまたは学校教育課窓口) ▷申請書に必要事項を記入し、必要書類を添えて郵送などで提出 ▷市の審査 ▷審査結果の通知後、該当者には可能な限り速やかに支給
	④直近で家計が急変するなど、収入が就学援助費を受給している方と同じ水準となっている方	
対象児童		18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある児童・生徒(特別児童扶養手当の受給対象となっている児童等は20歳未満)
申請期間	2023年6月1日(木)~2024年2月29日(木)	
注意事項	低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金と重複して受給できません	
市ホームページ	必要書類等詳細は市ホームページ等でお知らせします。右の二次元コードから給付金のページにアクセスできます。市ホームページ番号1026371	
問合せ	学校教育課☎23-1451	

幸せを感じる社会の実現に貢献する農業のあり方

グッドローカル農業に取り組んでいます

持続可能で幸せを感じる社会の実現に貢献する農業のあり方「豊岡グッドローカル農業」を市内に広めるため、3月5日にコウノトリ但馬空港で「第0回農業大会」を開催しました。

大会当日、5つの団体が取組み発表を行いましたので、その要旨を紹介します。

《問合せ》農林水産課☎23-1127



神鍋高原でドライブスルー農園を開園

農地所有適格法人(株)Teams 営業部長 由良 大さん

農業と観光を結びつけ、観光しながら農作業体験ができるドライブスルー農園を2年前から実施しています。体験者はEVモビリティ「トウクトゥク(タイで普及している三輪車)」に乗り、神鍋高原の景色を楽しみながら農園の新鮮な野菜を収穫できます。その他の体験活動や周辺の宿泊施設とも連携し、神鍋高原全体を複合レジャーワールドとして捉え、地域全体の魅力を発信していきます。



都市部も巻き込み神鍋大根プロジェクト

西気明日のいしづえ会 副会長 中島万佐代さん

地域の活性化を促すため、神鍋高原の気候と土壤を生かした大根を生産・販売するプロジェクトを8年前から地域コミュニティ組織で取り組んでいます。地域住民のみならず、都市部の農村ボランティアの皆さんも巻き込んでいます。大根を使った料理教室、雪中大根の収穫作業などを通して、多くの人に西気地区的魅力に共感してもらいたいと考えています。



農家の皆さんなどと一緒に生活循環をテーマにイベント開催

エシカル ビレッジ 岡本幸恵さん 岸本静香さん

「エシカル ビレッジ」は、自然環境に配慮した持続可能な暮らしを家庭から広めたいという思いから、子育て奮闘中の2人のママが運営・企画しているイベントです。これまで3回開催しており、イベントでは、地元農家・高校生による農産物の直売、地元野菜を使った飲食の提供などを行っています。環境に配慮した商品の消費を促進するだけではなく、豊岡ならではの魅力を再発見し、未来の子どもたちがふるさとを好きでいられることを目指しています。



農家や直売所と連携しこども食堂を運営

NPO法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク
事務局長 戸田和代さん

不登校やひきこもりの方のための居場所作りの支援の一環として、こども食堂を月2回豊岡健康福祉センターで開設しています。食材は、農家から提供された米や野菜、JAたじまの直売所「たじまんま」で集められた規格外野菜を使用しています。「自分たちも農業をやってみたい」という利用者は、地域からのサポートを受けつつ、農業体験も行っています。こうした活動が、通所する若者たちが抱える「しんどさ」をやわらげ、生きる活力を取り戻す手助けとなっています。



在来種「八代オクラ」栽培を振興

八代おもいやりネット 会長 石田善明さん

地域振興の一環として、60年以上前から八代地区内で栽培されていた「八代オクラ」を栽培・出荷する独自事業を行っています。地域振興だけではなく、拡大する耕作放棄地の対策や、景観保全の役割を担っています。地区の農家と生産活動を進めるとともに、料理コンテストの実施や地元保育園児の収穫体験、都市部大学生のフィールドワーク受け入れなど、地域内外を問わない交流も積極的に行ってています。



第1回大会は、2023年秋に開催予定です。